



# 朝のこない夜はない

山首 鈴木正修

# 人のためになる

## 生き方をしましろう

ほうおんじ 法音寺の始祖・杉山辰子先生は大予言者であり大霊能者でありました。一番有名な予言は関東大震災に関するものです。杉山先生は大正10年頃から大震災の来ることを予言されていました。しかし、これを世間に知らせることは法律によって禁じられていました。どうかしなければと悩んでおられる内に一年二年が経ちました。大正12年の夏、新聞記者を招いて相談をされましたが、皆口をそろえて「この予言を世間に発表することは不可能です」と言います。杉山先生は施すべき術なく、8月16日、帰名されることとなりました。品川駅から（当時の）東京市を仰ぎ見て嘆息され、目前に迫る大震災を予知し



ながら、未然にこれを防ぐことのできない我が身を嘆かれ、市民にお詫びの遙拝をされて泣く泣く名古屋に帰られたのでした。

果せるかな、9月1日午前11時58分、未曾有の大震災が首都東京を襲い、市街地は大火災となり、生地獄と化したのです。但し、先年、杉山先生が妙法の守り札を張り廻らされた芝区と麻布区の損害の少なかつたことは、不幸中の幸いでありました。

死者は10万人を超え、避難民は次々と他県にのがれ出ました。愛知県も例外ではなく、杉山先生は名古屋駅に仏教化救済会救済所を設け、毎日炊き出し、味噌汁等のご接待をされました。これは二カ月以上にわたって続けられました。また、名古屋港より米、その他食料品を送り、芝浦から荷揚げして罹災民に配布されました。さらに、死者三万人以上を出した陸軍被服廠跡にバラックの建物を造り、世人の覚醒を促さんとして法華三部経と



にちれんしようにん  
日蓮聖人の御一代記の書かれた小冊子『世界の鏡』を市  
民に施されました。

つぎ  
次のような話もあります。

あざのみようえ  
浅野妙恵さんという方の話です。

わがじ  
「私は六歳の甥、義寛と一緒に杉山先生のお伴をして、  
おわさか  
大阪にも東京にも度々行きました。ある時、大阪に行く  
よてい  
予定が、都合で私は翌朝でなくては出かけられないこと  
になつたので、そのことを先生に申し上げますと、先生  
は、『明日の朝の汽車で行かれると災難がありますよ』  
と言われました。

さいなん  
『災難とはどんなことでしょう』とお聞きしますと、  
きしや  
『汽車が衝突するかもしれません』と仰いました。私は  
ど  
『一度その災難に遭ってみようと思ひます。私と義寛と  
いっしょ  
一緒に乗って一心に妙法を唱えて行ったら死ぬようなこ  
とはありませんでしょう。妙法を唱えて、少しでも小難



になるならば結構だと思ひますが、いかがでしょう』とお尋ねしますと、先生は、『それならばよろしいでしょう』と仰いましたので、びくびくしながら災難のあるという汽車に乗りました。

ちようど関ヶ原の駅のあたりでした。急に、ガツン、ガツン、ガツンと三度ばかり大きな音がしてヒヤツとしました。びっくりして外を見ますと、機関車は横倒しになり、蒸気を吹いていました。衝突したのでした。しかし不思議なことに、衝突して機関車が脱線転覆しましたけれども、乗客には一人の負傷者もなかったと、翌日の新聞を読んで聞かせてもらって初めて知りました。そんな椿事でありましたのに、一人も負傷者がなかったのは奇跡的だ、ともありました。

先生は『それはあなたと義寛さんが乗っていたからです。妙法はありがたいナモ』と言われました」

私はこの話が大好きなんです、それにしても浅野さ



人の堅固な信仰心には感服いたします。

杉山先生はご自身のことも予言しておられます。大正5、6年頃の本部の講日の折、杉山先生は驚きの発言をされました。

「私はサツキの花の咲く頃、盲目になります。これは一時的なものであると思われまので、しばらくして元通りに見えるようになると思います。これは私の過去世の大きな罪障が、一時盲目になるといふ軽報で消滅されるものです。ある時、お前はサツキの花の咲く頃、盲目になるぞ」と天耳に聞こえました。何の因果で盲目になるのですか」と私がお尋ねしますと、お前は過去世に弓の名手で、合戦の折、敵の目を射たことがある。これは数百劫の長い間盲目になるはずの罪障であるが、妙法宣布の功德により現世に軽く受けて消滅するから喜ぶがよい」と聞こえました。このような悪因で、私はしばらく



の間あいだ盲目もうもくになりませんが、お話しはなし申もうしたとおり大難だいなんが小難しょうなんで消滅しょうめつするのですから、私わたくしが目めが見みえなくなつたからといつて、決して妙法みょうほうを疑うたがつてはいけませんぞ」

果はたして、杉山すぎやま先生せんせいの目めは、サツキの花はなの咲さく5月頃がつごろ、全く見みえなくなりました。しかし、杉山すぎやま先生せんせいは休やすむことなく、人ひとに手てを引ひかれて法座ほうざや信者しんじやさんの教化きやうけに出でかけられました。そして三カ月程げつほどで一人ひとりで歩あるけるようになり、一年半程ねんはんほどで元通りもとどおりに回復かいふくされました。

このお話しはなしは前世ぜんせいからの因縁いんねん因果いんぐわを説とかれたお話しはなしです。もう一つ紹介しょうかいします。

東京支部とうきょうしぶが設立せつりつされて間まもない頃ころのことです。子宮外しきゅうががい妊娠にんしんですぐに手術しゆじゆつをしなければならぬが、そのお金かねもないと困こまり果はてて来こられた夫婦ふうふに対して、杉山すぎやま先生せんせいは神通力つうりきで前世ぜんせいの因果いんぐわを見抜みぬかれ言いわれました。

「今いま、奥さんおくさんに宿やどっている子こは仇敵きうてきとも言いうべき魂たましいを持も



っています。しかし、妙法はありがたいものです。その  
仇敵の魂を成仏するようなご供養をして、その魂を去ら  
しめ、有徳の魂と入れ替えることができると思います。  
妙法によって蘇らせる方法をとられてはいかがですか」  
杉山先生とこの夫婦の積善の結果、月満ちて功德があら  
われ、奥さんは安産で男の子を生むことができたので  
す。

これが胎内教育、魂の入れ替えの始まりです。

このように杉山先生は三世（前世・今生・来世）を透  
徹して見通されましたが、アメリカにもエドガー・ケイ  
シーという稀代の超能力者がいました。ケイシーは18  
77年に生まれ、1945年に亡くなっています。ケン  
タッキー州の貧しい農家の生まれです。21歳の時に喉頭  
炎になって声が出なくなりました。その時にレインとい  
う催眠術師に催眠術をかけてもらって、喉頭炎が治りま



した。それから不思議なことが起きました。催眠状態に入っている時に病人のことを聞かれると、その病人の肉体の状況を透視し、治療法を明らかにすることができるようになったのです。人はいつしかケイシーのことを「眠れる預言者」と呼ぶようになりました。

肉体の状況を透視することをフィジカルリーディング（肉体的解読）と言います。もう一つケイシーには人の前世の業（カルマ）を見抜く能力がありました。これをライフリーディング（運命解読）と言います。ある人の前世のことを指摘し、今世でこういう生活をする、今世の運命が好転する。また来世も良くなるということを行いました。前世の因縁を語るわけですが、これはキリスト教世界では珍しいことだそうです。3万人以上の人がケイシーリーディングを受けています。その記録はヴァージニアビーチというところにあるエドガー・ケイシー啓発協会という所に残っており、いつでも見ることが



できるそうです。

一つ有名な話を紹介します。

アラバマ州のセルマのある少女が精神錯乱状態になり、精神病院に入れられました。どうにかして治したいと思った両親がケイシーのところにご相談にきました。ケイシーはいつものように横になって催眠状態に入りました。両親が少女の名前を言って「精神の状態がおかしいです」と相談すると、ケイシーは透視をして「この女の子の歯茎に親知らずが一本食い込んでいます。それが脳神経を侵している。この歯を抜けば、この子はすぐに正常に戻る」と言いました。その後、歯を抜くとすぐに少女は正常な状態に戻ったということです。

また遠隔透視もできましたといえます。ケイシーは国内はもちろん、アメリカにいながら、国外にいる人のことも透視できたそうです。例えば対象が私だったとすると、



「鈴木さん、今日そちらは風が強いですね」とか、「あなたの横には誰々がいて、あなたの病いが治ることを祈っていますね」などと言い当てたといひます。それによつてケイシーの透視の眞実性が増したということです。

このようなケイシーの透視能力が次第に知られるようになるのと金儲けに利用しようという者が現れてきました。「競馬の勝馬を教えてください」という者がいました。これは成功もするけれど、失敗もするといふ結果でした。普通の予想屋と変らない程度でした。そういう時は催眠状態から目覚めた時にとても疲れていたそうです。エネルギーを消耗して、自分自身にとても不快感が残ったそうです。

また「テキサスで石油事業をやらなにか」といふ話もありました。「油田のありかを透視してくれ」といふのです。これは全く良い結果を得られませんでした。結果的にケイシーはこつこつという透視をすると、不確かであると



同時に、すごく疲れることがわかりました。自分の能力は人を助ける時にだけ、確実に信頼するに足る。金儲けを目的とした時には力を発揮しない」と実感したとい  
います。

この話から私は思います。世の中にはお金儲けを一生懸命にする人がいますが、利己的にお金儲けをすること  
を神仏は喜ばれないのではないのでしょうか。

ケイシーはライフリーディング（運命解読）を自分自身にも行いました。彼は、数百年前はエジプトに住んでいて、神秘的な力を持つ位の高い僧侶だったそうです。  
しかし、自我が強くて官能的であったため、身の破滅を招いたということ  
です。その後はペルシャに生まれ、内科のお医者さんでした。その時、戦争で負傷して砂漠に置き去りにされました。食べるものもなく、水もなく、三日三晩肉体的苦痛の中にいました。その時に肉体から意識を解放しようと懸命に努力をしました。このことが



肉体から意識を解放する能力を今世で持つ基礎になった  
と言っています。前世での経験が今に生きているという  
ことです。また現世は一種の修行であるといえます。  
「自分は特別な能力を身につけてこの世にやってきた。  
この世で自己を捨てて人類に奉仕をするという機会を与  
えられた。これは今世での修行である」と言い、「過去  
世の罪障消滅である」とも言っています。

ケイシーの時代に、ニューヨークで有名な人気作曲家  
がいました。この人が「前世のことを見てほしい」と言  
って、ケイシーが催眠状態に入りました。ケイシーは  
「あなたの一番近い前世では、ニューヨークで音楽の先  
生をしていました。それより前は、ドイツで楽器職人を  
していました。もっと以前の前世では、カルディアとい  
う国でネブカドネザル王の宮廷道化師をしていました。  
その前はアトランティス人で、エジプトに行き、神殿の



楽士がくしでした。そういうようなことが生いかされて、今世こんぜで音楽家おんがくかとして成功せいこうしているのです。あなたの話はなが、非常ひじょうにユーモアユーモアがあつて人ひとに好すかれるのは宮廷道化師きやうていどうけしだったことが生いかされているのです」と言いいました。

転職てんしよくの相談そうだんを受うけた時ときにはケイシーはよく次つぎのように言いつたそうです。

「前世ぜんぜであなたが直なおさなければならなかつた性格せいかくや、変かえなければならぬ運命うんめいを、今世こんぜでその困難こんなんな仕事しごとを克服くふくすることによって成なしとげていくのです。これは学まなびです。だから今いまの仕事しごとが嫌いやだからと言いつて、簡単かんたんに転職てんしよくしてはいけません」

つまり、今世こんぜは修行しゆぎやうだということですよ。

ケイシーは過去世かこせのことがわかる理由りゆうを説明せつめいしていません。

「私は依頼者わたくしの無意識むいしきの心こころの中なかに入はいっていける。だから



その人の過去の情報がすべてわかる。またアカシックレコードというものが宇宙にはある。ここには宇宙が始まって以来のすべての情報がある。そこに接触すると、あらゆる情報がわかる。目が覚めている時は何もわからなけれども、催眠状態になると、そのアカシックレコードに接触していろいろな情報を手にいれることができる」

また、ケイシーはこんなことも言っています。

「人間の苦しみ、悲しみには必ず原因がある。人はまた通りのものを刈り取るのだ。だから原因が消滅すれば、必ず病気も治り、運命も変わっていくのだ」

仏教の因果の二法そのものだと思います。

最後に、ケイシーが常に言っていたことは、「他人に對する奉仕は、神への最高の奉仕である」ということでした。

ある時、多面的な才能を持った13歳の少年がケイシーに聞いてきました。



「将来しやうらいという職業しよくぎやうを選えらんだらいいですか。僕ぼくは大人おとなになつて経済けいざい的に一番成功ばんせいこうするには、僕ぼくのどの素質そしつに従したがつたらよいでしょうか」

ケイシーは次つぎのように答こたえました。

「経済けいざい面のことは忘わすれて、世界せかいを住すみ良いところにするために、一ばん役立やくだつ方法ほうほうは何なんであるかを考かんがえなさい。単たんに報酬ほうしゅう目当めあてのことは、決けつしてしてはなりません。金きん銭せん上の利益りえきは、その人ひとが自じ分の才能さいのうを人ひとのためになる方面ほうめんへ使つかえば、結果けつかとして必かならず得えられるものです」

また、ある貿易商ぼうえきしやうにはこう勧告かんこくしました。

「人々ひとびとへの奉仕ほうしをモットーにしなさい。あなたと縁えんのある人々ひとびとが、あなたによつて利益りえきを受うけるようにして、決けつして彼らかれを踏ふみ石いしとして利用りようするようなことがあつてはいけません」

ケイシーの人生哲学じんせいてつがくは、法華經ほけきやうの教おしえに通つうずるのではないかと私わたくしは思おもいました。



最後に、ケイシーはこの世を修行の場であると言っています。杉山先生も『人界は保釈』というご法話で次のように言っておられます。

「保釈出獄者は謹慎して、行いを正しくせねばならぬのであります。保釈にて人界に生を受けたる者も、自分の保釈なる所以を悟り、行いを慎み、善根功德を積めば、必ず罪業は次第に消滅して青天白日となり、幸福が来るのであります」

「皆さん、我が身の保釈なることを悟られ、油断をせず、妙法の修養に努力してください。必ず世間の大難をも救うことができます。この悟りこそ、実に一生の幸・不幸の分岐点であります。これを悟りてこそ、尊き人生を全く有意義に暮らすことができますのであります」

